

## ■ 3年生の合格体験記

大学合格および就職内定の体験記。今回は福島県立医科大学に合格した宍戸葵さん(3年5組)といわき信用組合に内定した四家虹太郎君(3年7組)の2名です。宍戸さんは、福島県立医科大学に合格した昨年(2021年)の12月25日(金)に福島民報の取材を受け、12月26日(土)の紙面で大きく取り上げられました。記事には、「乳がん発見に向けたマンモグラフィー健診の受診率向上が課題となっている。女性が少ない放射線技師の領域に自分が身を置くことで、受診率向上に貢献したいと願う」と紹介されました。「コロナ禍で医療従事者を取り巻く環境は厳しいかもしれないが、そんな中でも自分ができることを全うしたい」と、宍戸さんはしっかりと前を見据えています。四家君は内定したいわき信用組合以外に、就職活動中に職場見学をした他の企業からも「ぜひ当社の受験を考えていただきたい」と声が掛かるなど、しっかりとした受け答えが高評価につながったようです。2名の合格体験記をぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 宍戸 葵 (3年5組) 福島県立医科大学  
保健科学部診療放射線科学科合格

今年度は新型コロナウイルスの影響で、オープンキャンパスや説明会が遅れたことに加え、保健科学部は新設のため、夏休みの時点でほとんど情報がありませんでした。他の大学の推薦をいただく予定でしたが、9月の中旬に行われた説明会がきっかけで、上記の大学を受験することを決意しました。



先生方は、急な進路変更にも関わらず、受験の準備に尽力してくださいました。保健科学部の過去問がないため、看護学部の過去問を解き、先生方に添削していただきました。英語と国語の長文読解で、私は苦手な英語を重点的に対策しました。面接はどのようなことが聞かれるか分からないため、先生が練習で様々な質問をしてくださいました。一言一句暗記するのではなく、言いたいことだけ忘れずにしました。

試験当日はかなり緊張しました。1日目は筆記試験で、英語と国語の長文読解だけだと思っていましたが、数学も出題されて驚きました。数学の対策はしていませんでしたが、授業で共通テストのために問題を解いていたので、それほど慌てることなく問題に取り組むことが出来ました。2日目の面接は、緊張のあまり練習していた質問にあまり上手く答えられませんでした。逆に練習していなかった質問にはスラスラ答えることが出来ました。合格発表はネットで確認し、自分の番号を見つけた時はとても嬉しかったです。

私が9月に希望進路を変更したように、自分が学びたいことや将来の夢はある時、急に変わることがあります。自分が進みたい道に進むには1、2年生の時からの積み重ねが重要だと身をもって感じさせられました。学習や部活に励み、真面目に学校生活を送れば自然と選択肢が増えます。

私は昌平中卒なので、先生方には6年間お世話になりました。本当にありがとうございました。大学合格を1つの通過点として、将来の夢に向けて精進していきたいと思います。

### 【合格体験記】 四家虹太郎（3年7組） いわき信用組合内定

私は、いわき信用組合の採用試験を受けるまでに、国語、数学、英語、社会の勉強はもちろん、小論文や面接の練習に時間をかけました。



去年の先輩の受験報告書を見て、面接で聞かれていることが多く書いてあったので、毎日各先生方をお願いして色々な質問をしていただきました。面接ノートを作成し、準備していた質問に対してはすんなり答えられました。準備していない質問をされると戸惑ってしまう部分が多く、アドリブで答えようとしてもあせって答えられないことがあったので、そのことを意識して、入社試験直前の面接練習に臨みました。

実際の試験では、沢山の面接練習をしていたので、練習していなかった質問に対してもアドリブで自信を持って答えることができました。筆記試験の方は、事前に取り組んでいた問題と異なる形式の問題でしたが、日頃の積み重ねもあり、何とか答えることができました。いわき信用組合は、二次試験で役員面接が課され、何とか内定を勝ち取ることができました。内定式を終えた辺りから合格したことの実感がわいてきました。

就職を希望する人は、基本的な学力を身につけながら、人間力に磨きをかけるようにしましょう。何と言っても面接が大切になりますので、沢山の先生方に協力していただきながら、慣れていくようにしましょう。

## ■ 学年末考査に向けて

学年末考査が3月8日（月）～3月10日（水）にかけて実施されます。今年度最後の定期考査です。悔いの残らぬよう、しっかり準備をして臨みましょう。3年生諸君の中には、「もっとしっかり普段の学習に取り組んでおくべきだった」と感じていた人が多いようです。どのような進路になるにしろ、基礎学力は問われますので、学習の習慣をつけておくことが大事になります。特に大学へ推薦入試で進学を希望する者は、各大学から提示された評定平均値に達していないと受験資格を得られませんので注意してください。



## ■ 日本学生支援機構・予約採用について

1月27日(水)までに今年度の日本学生支援機構奨学金の予約採用の希望者(3年生)に対する回答について、全員に配付しました。必ずしもご希望通りの回答でなかったケースもあるかもしれませんが、回答にしたがって、入学手続きの際に、奨学金申請の手続きも進めていただければと存じます。ここで手続きを済ませないと申し込んだことにはなりません。不明な点等ございましたら、日本学生支援機構に直接お尋ねください。



## ■ 大学入学共通テストの結果について

大学通信発行の『UNIV PRESS NEWS』(VOL.10)に「大学入学共通テストの結果」ということで記事が掲載されていました。以下に引用します。なお、出題内容について、学校で問題講評として分析したものをしていますので、そちらの方もよく確認してください。



大学入学共通テストの平均点(中間集計)が発表された。主要19科目(英語〈リーディング、リスニング〉、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、倫理・政経、理科①〈基礎理科〉、理科②〈専門理科〉の物理・化学・生物)を昨年同時期の平均点と比較すると、半数の科目が昨年よりアップした。

英語の「リーディング」は、科目名が「筆記」から「リーディング」に変わり、配点が200点から100点になり、「発音・アクセント・語句整序など」が単独では出題されないなどの変更点があった。平均点は60.35点で昨年より0.9点アップした。「リスニング」は、配点が50点から100点へ。問題数が増え、第3問～第6問は音声は1回のみになり、難化した。平均点は57.23点で1.41点ダウンした(\*いずれも昨年の点数を100点満点に換算して算出)。

国語は、58.02点(100点満点に換算)。0.26点ダウンで昨年並みだ。

数学は、数学Ⅰ・数学Aが59.20点で、5.95点アップした。数学Ⅱ・数学Bは62.85点で、昨年より11.27点アップ。数学Ⅱ・数学Bの平均点が6割を超えるのは、現行の学習指導要領になってから初めてのことだ。

地理歴史は、世界史Bが65.79点で0.69点アップ、日本史Bが66.06点で1.16点ダウン、地理Bは62.52点で5.42点ダウン。

公民は、倫理が71.76点で6.53点アップ、倫理・政経が69.18点で2.79点アップ。現代社会は54.34点で4.72点ダウン、政治・経済は51.32点で4.94点ダウン。

理科は理科①(50点満点)の物理基礎が38.12点で3.80点アップ、地学基礎が34.71点で6.65点アップ、化学基礎が25.60点で3.39点ダウン、生物基礎が30.17点で2.48点ダウン。

専門理科の理科②は物理が58.89点で2.75点ダウン、化学が52.80点で3.43点ダウン。生物は73.14点で昨年より14.45点アップした。

※引用文に記されていたように、公民の倫理と政治・経済、理科②の生物と化学で20点以上の点差があり、得点調整が行われたようです。

## ■東日本大震災から 10 年

2011年3月11日午後2時46分。筆者は当時、東日本国際大学の鎌田翼窓会館6階にあった中学2年生の教室で、その年度最後の授業をしていました。あと4分ほどで授業が終わるといふ時でした。突然、とてつもなく大きく長い揺れに襲われました。「この世の終わり」とも思えたそれまでに経験したことのない揺れに気が動転しそうになりましたが、生徒たちに机の下で頭をしっかりと隠すよう必死に大声で指示していたことを覚えています。ある男子生徒の横にあった大きなロッカーが踊るように揺れ動いており、下敷きになったら大変だとの思いもあったことからなおさらでした。筆者自身もあまりの揺れの大きさに教卓にしがみついて、叫んでいるのがやっという状況でした。

本校の中学生の中には、遠方から通っている生徒もいます。震災時そのような生徒が多くいましたが、道路が陥没していたりして通行止めになったり、混雑したりして、保護者がなかなか学校まで迎えに来られなかったことから、一晩、複数の生徒と複数の先生方で、安全のために用意していただいたマイクロバスで過ごしました（※建物の中では、天井が落ちてくる可能性があるとのことで配慮していただきました）。なかなか情報がなく、その時点では、津波や原発事故などに関してはよく分からない状況でした。地震、津波後の福島第一原子力発電所の爆発事故については、その翌日、学校のテレビで状況を見守りましたが、先生方もとても緊迫した様子だったことを覚えています。

数年前に東京電力ホールディングス株式会社に就職した卒業生がいます。事故当時、親御さんが同社に勤務しており、事故後いろいろ非難されるなどして親御さんだけでなくその卒業生本人も悔しい思いをしたこと、また福島県や地元の復興に少しでも貢献したいとの思いもあったことから同社への入社を希望していました。当時、職場見学の際には、進路指導担当の教員の引率が必要とのことで、筆者も東京電力福島第一原子力発電所の事故現場に足を運び、2時間という限られた時間の中で、見学者用のマイクロバスの中から爆発した建屋などを目の当たりにしてきました。除染を済ませたということで、放射線量は低い状況でしたが、緊張感の漂う現場で、作業員の方たちは細心の注意を払って作業に取り組んでいました。ただし、特に汚水処理については報道にもあったようにかなり頭を抱えている印象がありました。

東日本大震災から10年という節目の年に、東北楽天ゴールデンイーグルスに8年ぶりに田中将大投手が復帰するという明るいニュースに湧いていた矢先、2月13日（土）の午後11時8分に2011年3月11日を思い起こさせる大地震がありました。今回は多少の潮位の変化はあったようですが、津波もなく、この地震の影響で亡くなった人もいませんでした。さらに、少なくともいわき市内では断水や停電などライフラインが滞ることもほとんどありませんでしたが、筆者自身も改めて備えをしっかりとしなければならないと自戒しました。東日本大震災からちょうど10年を迎える来月11日、みなさんもさまざまな思いを抱く特別な日になることと思います。コロナ禍ですが、震災をはじめとする多くの災害とも向き合っていかなければなりません。 文責：清水聖（進路指導主事）

